

今は若き保育者の多くなりし

24 昔は保育者の服装は柄合細かく地味で有つたが

今は保育者服装の柄合は大きく派出になりし

25 昔は保育者の髪は年長者は丸まげ若き者は蝶々

まげ又は島田まげに結びしが

今は保育者全體に束髪の輕快なるものとなりし

26 昔は保育者東京女高師付屬園では縞の袴をはく

地方幼稚園の保育者は袴をはかなかつた

今は無地の袴又は洋服を用ゆる様になつた

27 昔は保育者の態度風采共に重もくるしく輕快な

らざる感あり。これは其頭髮及び服装の關係よ

り來るものならんも幼兒に明るき感じを附與す

るに物足らぬ感ありし

今は保育者の態度風采共に其洋裝者は快活敏捷

に、其着袴者も同様に幼兒に優良の感情を養ふ

に十分なり。此の輕快なる態度を有する現代の

若き保育者諸氏は此態度の基礎を師範學校或は

女學校の在學中に於て體操科で鍛練せられしに

よるものにて昔時變則出身の到底及ばざる所で

同日の論にあらざるを思ふ。

以上昔時の古き記憶をたどりて

(昭和六年初夏 銀女)

(三五頁よりつゞく)

宙を飛んで來さうです。それで、

水の中から飛んで出よ、

と改めました。今更でもないことですが、その

まゝでも濟まされることを氣がついてから考へれ

ば、まことに、きまり悪いほど鈍感でありました。

水の中から、蛙は、出て來ることは、きまつて

ゐますのに、「飛んで來い」とは、何うしたことな

のでしたかと、今は、不思議に感ずるほどです。